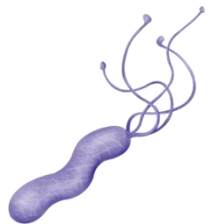


ピロリ菌とは？



皆さんは、「ピロリ菌」についてどのくらいのことをご存じでしょうか。

胃癌の患者さんの胃にはピロリ菌が感染していることが多く、また、ピロリ菌を除菌することで胃癌の発生リスクが下がることもわかっています。

2 感染する？

ピロリ菌の感染源は明らかになっていませんが、免疫の未熟な幼児期に不衛生な水などを摂取して感染すると考えられており、日本ではご高齢の方の感染率が高いです。ピロリ菌は尿素を二酸化炭素とアンモニアに分解する「ウレアーゼ」という酵素を産生します。

そして、発生したアンモニアによって局所的に胃酸が中和され、ピロリ菌が胃内に定着します。

この「ウレアーゼ」の関与や、細菌が発生する毒素によって粘膜が障害され、さまざまな病気が起こります。

ピロリ菌が長期間感染することによって、萎縮性胃炎などの慢性胃炎が起こり、胃癌や胃十二指腸潰瘍、MALTリンパ腫のリスクが高まります。

検査法は？

3

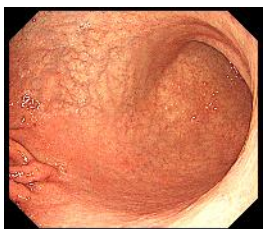
ピロリ菌に感染していることを調べる検査法

- 〈 一般検査 〉
- ① 尿素呼気テスト
- ② 血中・尿中ピロリ抗体
- ③ 便中ピロリ抗原
- 〈 内視鏡検査 〉
- ④ 迅速ウレアーゼ試験
- ⑤ 組織生検
- ⑥ 組織培養

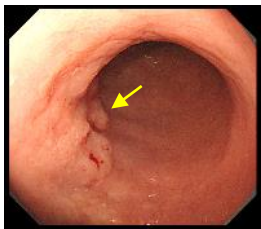
また、これらの検査は除菌治療後の効果判定にも使用されます。ピロリ菌の検査や除菌を保険診療で行うためには、「萎縮性胃炎」などの内視鏡所見が必要となりますので、内視鏡検査を受けていただく必要があります。



ピロリ菌に感染していない健康な胃



ピロリ菌に感染した胃(萎縮性胃炎)



萎縮性胃炎を背景に胃癌を認めます



内視鏡で癌を切除しました

除菌法は？

4



除菌の方法は、胃酸を抑える薬に2種の抗菌薬を加えた3剤を1週間内服します。

一定期間あけて効果判定を行い、除菌が来ていなかった場合は抗菌薬を変更して再度除菌を行います。一次治療の成功率は8割程度で、二次除菌の成功率はさらに高いようです。三次除菌に関しては保険診療では行えません。

除菌成功率を上げるためにもっとも大事なことは「7日間きっちり内服すること」です。

また、除菌中のアルコールの摂取は控えてください。コーヒーや喫煙も除菌にはよくないようです。逆にヨーグルトの摂取は良いようです。

除菌薬の副作用には、腹痛、下痢、味覚障害、発疹、発熱、肝機能異常などがあります。

気になる副作用が生じたときには、自己判断で中止せず医師、薬剤師にお問い合わせください。

5 最後に・・・

ピロリ菌を除菌することで胃癌などのリスクは下がりますが、未感染の人よりもリスクが高いことには変わりません。胃癌は早期に発見すると、外科手術ではなく内視鏡で切除できることも多いです。除菌後も年に一回程度、内視鏡検査を受けることをお勧めします。ピロリ菌の除菌、そして定期的な内視鏡検査。胃の健康を守るにはこの二点が最も重要です。

お気軽に消化器内科、外科にご相談ください。

